

マイクロタスクの床投影システムにおける 歩行人の行動に対するインセンティブの影響

福田 京子

問題解決の手法の一つとして、クラウドソーシングがある。クラウドソーシングとは、問題を分割して不特定多数の人に委託し、問題を解決する手法である。クラウドソーシングでは、依頼されるものをタスク、タスクを行う人をワーカと呼ぶ。クラウドソーシングでは、問題の解決のために、ワーカに必要な数のタスクを、求める最低限度のクオリティ以上でやってもらう必要がある。しかし、これらの条件が必ずしもそろわないわけではない。この問題を解決する一つの方法として、適切なインセンティブをワーカに与えることが考えられる。

インセンティブとは、人々が何かを行う際の動機付けのことを指す言葉である。クラウドソーシングでは、適切なインセンティブを与えることで、先にあげた問題が解消することがあることが知られており、これまで多くの研究が行われてきた。そんな中、日常空間にクラウドソーシングのプラットフォームを置く、Task-on-the-Floor システム(以下 ToF)というマイクロタスクの床投影システムにおいては、インセンティブに関する研究がされてこなかった。

そこで、本研究では、ToFにおけるインセンティブに関する知見を得ることを目指す。

本研究では、まず、実験の前にアンケートによる調査を行い、システムに回答したことのある人のうち、システムに回答した理由として音声情報をあげた人が 19%いるという情報を得た。また、クラウドソーシングのインセンティブのうち、ToFでも利用できるインセンティブと利用できないインセンティブに分類した。分類の結果、「楽しさ」「目的」「報酬」の3種類のインセンティブがToFで利用できることが分かった。アンケートと分類の結果をもとに、「楽しさ」「目的」「報酬」の3種類の音声情報によるインセンティブの比較実験を行った。使用したインセンティブは、タスク回答後に5種類の感謝がランダムで流れるもの、タスク回答前にシステムの周知を行うもの、タスク回答後に次の日の天気を告知するものの3種類とした。実験は、日常的にToFが設置されている筑波大学の構内で実施した。実験の結果、日常的にクラウドソーシングが行われている環境において、今回比較したインセンティブを1週間程度設置することによって、ワーカが受ける有意差のある影響はないことが分かった。

(指導教員 森嶋厚行)